

受付番号：01

団 体 名	特定非営利活動法人 Uniform Recycling Link
所 在 地	山梨県甲府市
事 業 名	子どもの制服リサイクル事業
事 業 概 要	<p>子育てにかかる費用は、医療費や医療費の減免などで軽減されているかの印象があります。しかし、実際の家庭の負担は年々増加しています。とりわけ制服についてはブランド化などで高額化の傾向が強まっています。</p> <p>文部科学省の「子供の学習費調査」によれば、平成 22（2010）年と令和 3（2021）年の公立高等学校（全日制）を比較すると、62,615 円から 79,888 円へと 17,273 円の負担増となっています。実際には教材や通学用品、部活動の負担など合わせると入学時には 15 万～20 万円ほどにもなります。</p> <p>そのような状況は、子供に部活動などを諦めさせたり、時には進路の変更を強いたりしています。</p> <p>山梨県内では毎年中高合わせて 12,000 人ほどの子供が入学しています。1 人 1 0 万円として約 1 2 億円が制服関係費用に消費されています。</p> <p>中古制服をリサイクルすることで、直接的に家庭の負担を軽減させることだけでなく、それらの費用を子供の学力や生活を向上に向けることができれば、大きな効果となります。</p> <p>ただ単に「お助け」ではなく、子供たちにも活動に参画していただき、地域社会や環境問題について考える場を提供したいと考えます。</p> <p>具体的には、卒業生から不要になった制服を寄付していただき、販売会を開催し必要な方に譲ります。</p>

受付番号：02

団 体 名	一般社団法人ワンオブハート
所 在 地	山梨県南アルプス市
事 業 名	急増する不登校児童のための支援事業
事 業 概 要	<p>山梨県のみならず全国的に急増している不登校児童。これまでの不登校対策は学校復帰を目的とするものが主であったが、それは真の不登校対策とはなっておらず、不登校児童は増加の一途を辿っている。真の不登校対策とは、学校以外の学びの場が周知され、子ども達が学びの場を選べる環境を整えることではないか。しかし、現状は学校以外の学びの場の認知度は低く、全国約 30 万人いる不登校児童のうち約 4 割に当たる 11 万人を超える子ども達がどこにも繋がっておらず、自宅に引きこもっている状態である。このように不登校になると、どこにも行き場がなくなってしまうことが最大の問題点であると考えている。よって私達は、学校以外の学びの場が周知され、子ども達が学びの場を選べる社会の実現に向けたプログラムを実施する。具体的には、今運営しているフリースクールに「自立支援プログラム」を導入し、コンテンツの充実を図ると共に、月に 1 度子ども食堂を実施して、フリースクールの存在を知らない子ども達や地域の方々にフリースクールの存在を知ってもらう機会を設け、更には他地域のフリースクールとも積極的に連携を図っていく。今年の夏には奄美大島のフリースクールを訪問して奄美研修を開催予定である。これらの活動内容をまとめた動画を作成し、山梨県内の企業を訪問。事業が継続可能となるようスポンサー企業を募ると共に、企業研修を提案。不登校児童を抱える企業の従業員さんを対象とした研修を実施し、地元企業とも連携していく。このように、地元の方々や企業とも連携して、現在運営しているフリースクールがさらに開かれた場となるようなプログラム運営をしていく所存である。また、地元の方々や企業とも連携し、フリースクールが開かれた場となることで、地域の方々との交流の機会が増え、地域活性化という意味での地域貢献も果たしていきたいと思っている。</p>

受付番号：03

団 体 名	(任意団体) ぽかぽかキャンプ
所 在 地	山梨県南都留郡富士河口湖町
事 業 名	ぽかぽかマルシェ
事 業 概 要	<p>日本社会における家族のあり方の多様化の中で、核家族の増加によりコミュニティの縮小が進む中で各家庭は孤立しやすくなっており、家庭の教育機能が低下していると言われている。とりわけ、障がい児のいる家庭にとっては一般的な育児に加え、障がいに起因する多くの付随する負荷がかかっていることは明白であり、その結果日常生活を送ることですら困難が多く、様々な福祉制度を利用しながら生活を送っているのが現状である。各種福祉制度によって専門的教育や福祉サービスを受けることはでき、一人間として不足のない生活を送ることはできるが、特別支援教育や福祉作業所など、教育の場でも社会に出てからも特別な支援を受け、生涯にわたり支援される側として社会の中で生きていくことがほとんどである。子ども自身が社会との接点を持ちにくい環境にいることに不満を感じている親も少なくないが、その一方で支援される側という認識を強くもち、社会との接点を多く持つことに追い目を感じ選択できない親も多い。障がいに起因する不安によって、社会に対して消極的であり、やりたいことを我慢したりそもそもできないと思いつているため、今を楽しみ、将来に希望をもつことができる親が少ないことが弊団体が最も懸念する問題であり、課題である。</p> <p>本事業では、参加者がやってみたいことや好きなことをお店という形で出店する「ぽかぽかマルシェ」というイベントを開催する。誰もが安心して楽しみながら参加でき、役割と対価が循環する小さな社会を体験することで、自分も社会の一員であることを実感できる場を提供する。本事業を通じて、人の役に立つ経験や人と交流して繋がりをつくることで、社会と接点を持つことに安心感をもたらすことができると考える。ここで形成された安心感は、「支援される側」と「支援する側」を超えた対等な関係に変わり、多様性を受容した暮らしやすい社会の実現につながっていくと考える。</p>

受付番号：04

団 体 名	(任意団体) スポーツクラブ JOY
所 在 地	山梨県南巨摩郡富士川町
事 業 名	知的障がいのある人の自立支援と家族のためのプログラム
事 業 概 要	<p>知的障がいのある人(アスリート)にも同年齢の方と同じ感情がある。しかし、わかっていない、理解できないと思われることが多いため制限されてしまう現実がある。認められる。任される。といった経験が乏しいことが、自信を持ってない、意欲がない、ストレスにより、家族にとっては関わり方が難しい、大変といった負の連鎖がおきる。まずは、事業の柱の1つであるスポーツプログラムの実施を通して、知的障がいのある人を対象とし、スポーツを通し関わる全ての人(障がいのある人もない人も)が成長することを目的とし共生社会を目指す。次に、もう1つの事業の柱でもある視察プログラムを通して、知的障がいのある人(アスリート)が、社会とつながるために必要なスキルを身につけ可能な限り自立することを目指す。買い物をする。親の見守りの中で仲間との旅行を通し体験する。旅行先は、知的障がいのある人が働く事業所の視察プログラム・交流・意見交換及び買い物体験。1日目の昼食は家族等のサポートにより知的障がいのある人(アスリート)が自分で注文して食べる。2日目は可能な限り自分で注文して食べる。買い物においても同じ。移動のバスにおいても知的障がいのある人(アスリート)と家族の席を分ける。宿泊先においても同様に食事の席、部屋割りを別にする。知的障がいのある人(アスリート)なりに考えてどうすれば意思を伝えられるのか、どのようにすればできるのかを考える機会とする。家族は何が課題で、何を配慮すれば自立につながるか考える機会とし意見交換する。知的障がいのある人(アスリート)についてはサポートして頂ける方を配置するが、あくまでも見守り重視とする。互いが本事業を継続して行うことにより、気づき、学ぶことができる。共生社会の実現に向けていくには、障がいのある人もない人も互いを尊重し合い共に生きることであり、「気づき」「理解」することにより、合理的配慮が可能になる。知的障がいのある人(アスリート)の特性を理解し、継続して実行する。</p>

受付番号：05

団 体 名	特定非営利活動法人きらきら星
所 在 地	山梨県南巨摩郡富士川町
事 業 名	外遊び推進プロジェクト
事 業 概 要	<p>当団体は活動を行う中で、こどもが自然の中で自分の意志で自由に遊ぶことが、こどもの心身発達に大きく寄与すること、保護者がリラックスできること、他者と触れ合うことに喜びを感じられるようになることに気づき、この活動をさらに全てのこどもたちへ広げたいと考えていた。しかし、当団体の組織基盤が脆弱であったこと、都市部の外遊びプログラムを取り入れても、こどもが圧倒的に少ないこと、もともと自然豊かな環境なので自然の中で遊ぶ価値が理解されず、うまくいかなかった。そのため、その課題に対して、一、未就園児対象の当団体が地域へ出向く出張外遊び会と学校が休みの日に開催する出張プレーパークを、お金を持ってこなくても遊べるようにこども食堂や野外炊飯などの食事の確保と同時に行う。二、こどもや保護者にとって支援者は非常に大切な存在であること、野外では予期せぬ怪我、事故も起きやすいため、研修、先進事例の視察を通して、人材育成を行う。また、地域でこどもの特性を知り、自然の中で遊ぶ大切さを知ることは少子化の現在こどもがのびのびと成長するために必要であることから、一般の方対象の講演会を行う。三、次年度へ繋げていくために、全国規模で発信できるHPや動画の作成を行い、こどもの外遊びの理解を促進する。これらの活動により、こどもの心身の健全発達、孤立した子育ての解消、こどもに寄り添う支援ができる人材の育成、こどもの休日・放課後プログラムの充実、こどもと地域をつなぎ、こどもを軸とした地域活性化を全国の中山間地域のモデルとなるべく活動する。</p>

受付番号：06

団 体 名	(任意団体) みんなのいばしょぴよん
所 在 地	山梨県甲府市
事 業 名	コミュニティスペースによる地域活性化活動
事 業 概 要	閉店した空き店舗を再生し、誰でも気軽に利用できるコミュニティスペースを運営してる。コミュニティスペースでは、現在働いていない潜在保育士を活用し子どもから高齢者までが一緒のスペースで話をしたり気軽に時間を過ごしてもらう。保育士不在日は、レンタルスペースとして活用し、空き店舗所有者に経済活動を創生する。レンタルスペースの管理者には、シルバー人材を活用し高齢者へ生きがいを与える。コミュニティスペースでは、子どもから高齢者まで参加できるイベントを主催する。イベント内容は実施経験のある石鹸作りやヨガ、アロマ、ベビーマッサージ等を行う。イベント開催中は保育士が常駐し子どものお世話をすることで、その間は、親の自由時間にしてもらう。また親同士の話し相手になることで子育ての孤立感からの解放という課題にも取り組む。

受付番号：07

団 体 名	(任意団体) コミュニティハウスはぐる・う
所 在 地	山梨県甲府市
事 業 名	「地域に暮らす全ての子どもに、食と遊びと学びの機会を」～どんな困難があっても自分を幸せにする力を育む地域づくり～
事 業 概 要	<p>「地域に暮らす全ての子どもに、食と遊びと学びの機会を」～どんな困難があっても自分を幸せにする力を育む地域づくり～ 「食」と「駄菓子」と「本」の三つの活動を通して、地域に暮らす子ども達の孤立を無くし、自分らしく生きる力を育む。どのような困難な環境でも、自分で自分を幸せにする力を育てていくことを目指す。</p> <p>①「食」では、おだし塾、自炊塾を通し、食べる力を生きる力にしていく。新しい学びと、一緒に食べる楽しさ、自分のため他の人のための「食」の体験を通して、自己肯定感を育み、生きる自信につなげていく。子ども達が得た力を地域の人に還元していくことも視野に入れ、「食」を通した地域循環型の活動をおこなっていく。</p> <p>②「駄菓子」では、通い、つながることを入口に、店長体験や仕入れ体験等の参加型のかかわりにより、生活スキルの向上と体験の機会作りをおこなっていく。出張駄菓子屋などのアウトリーチ活動への参加の機会も設け、駄菓子を通じて他者に喜ばれる行為を通し、自己肯定感・自己効力感を育てていく。</p> <p>③「本」では、私設図書館として気軽に本に触れる機会を持つ他、「自分の本棚」体験として、自分の好きなものを周囲に発信できる場を提供。リアルな自らの表現の場を通して他者との交流の機会を創出する。また、生きる力を育む場として、定期的な多様な学びの場を開催する。お金やメディアリテラシー、SNS、ジェンダーやセクシュアリティ、知っておきたい社会保障等、生きる力を育むために必要な学びの場を、子ども達と相談しながら作っていく。子ども達の声聞きながら、企画の開催や運営をおこなっていく。</p> <p>生まれたつながりを、地域全体に循環させ広げていくことを目指し、ご近所を始め、自治会や幼稚園・保育園、小中学校、地域包括支援センター、地域の読み聞かせボランティア等、様々な機関と連携し地域の共有財産とソーシャルワークの視点で活動をおこなう。</p>

受付番号：08

団 体 名	特定非営利活動法人グローバルビジョン
所 在 地	山梨県甲府市
事 業 名	国際理解をめざした子ども食堂事業の運営 (副題) 多文化共生を目指してグローバルフェスタの開催
事 業 概 要	<p>国際化が進展していく中、コロナによるコミュニケーションができない時期があり、日本人同士のコミュニケーションが取れない時期が3年以上ありました。さらにその間に外国との行き来も制限されるなど外国人とのコミュニケーションをとれない時期も長くありました。そのような機関において、これまで培ってきた外国人との国際コミュニケーションを培ってきたことができない時期があり、外国人とのコミュニケーションをとれないという課題が表面化してきました。特に若者においてコミュニケーションをとれない子が増えており、社会的に大きな課題となっています。このような中、我々は山梨県内の在住の子どもたちに職を通じて国際化教育・多文化共生教育を行うことを計画しています。具体的には月に2-3回ほど様々な国の料理を使った子ども食堂を開催し、その国の人とコミュニケーションをとる場を作ります。またこれに伴い、対象者が一堂に会することができる山梨グローバルフェスティバルを開催し、様々な人種のネットワークを構築する計画です。こちらはイベント型の大規模な子ども食堂事業として、子どもは無料で食べられる形で食を提供するような形を想定しています。</p>

受付番号：09

団 体 名	(任意団体)「わに塚の桜」景観保護耕作放棄地対策団体アプレーヴ
所 在 地	山梨県韮崎市
事 業 名	子ども食堂支援及びわに塚の桜周辺の景観保護プログラム
事 業 概 要	<p>現在山梨県内には、57箇所の子どもの食堂があります。近年の厳しい社会環境の影響もあり、子どもの食堂利用者は年々増加傾向にあります。また、現在活動している韮崎市神山町の米づくり環境は、年々悪化しています。具体的には、農業年齢の高齢化と後継者不足により手付かずの荒れた田んぼ、いわゆる耕作放棄地が増加しています。人の気配がない田んぼは、「シカ」や「ハクビシン」などの野生動物の集まりやす場所となり、様々な獣害が予想されます。現在有名な観光地として知られている「わに塚の桜」も例外ではなく、野生動物に樹皮を食べられてしまえば年々弱っていく可能性があります。また、耕作放棄地が増加すると米の生産量は減少し秋にみられる美しい田園風景が失われることや、米の高騰化、子どもの食堂に寄付される米の減少など様々な影響が生じます。私たちの活動では、米作りの観点から、これらの問題を解決するため、安定した米の生産環境を整えることを目標として活動していきます。また、その過程を農業体験ワークショップ・子どもの食堂への米提供など、就農者誘致や食育に関する活動と同時に行うことで、地域課題の解決や活動の周知を目的としています。</p>

受付番号：10

団 体 名	社会福祉法人子育て・発達の里
所 在 地	山梨県甲斐市
事 業 名	妊娠そうっと SOS 山梨
事 業 概 要	<p>社会福祉法人 子育て・発達の里では小規模型乳児院を併設しており、乳児院に入所する子どもたちは若年出産児が多く一人で悩み誰にも相談できずに出産するしかない状況にあったことがわかりました。令和 2 年 10 月より相談窓口として活動していますが、相談の中で予期しない妊娠の背景に、貧困、虐待などの複合的な環境や困難さを抱えてきたことが相談者の話の中でしばしば聴かれます。特に多い相談は受診や中絶費の工面などの経済的な支援です。</p> <p>相談者の声や相談状況を、令和 6 年度から施行される「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」の県の検討会の構成員として 3 回参加し報告しました。</p> <p>妊娠する過程には男女 2 人いるはずですが、生物学的に妊娠のできる女性だけが予期しない妊娠の負担や責任を負わされ、困難さを抱えることとなります。孤立出産で産まれた子が遺棄された事件が山梨でも昨年 2 件ありましたが、妊娠は一人で抱えきれものではありません。</p> <p>私たち妊娠そうっと SOS 山梨では、電話、LINE、メールなどの相談窓口を匿名で広く相談を受け、一人で困難さを抱えてきた方々が医療機関や支援機関に早期につながるように支援を行います。相談することが安心安全につながるという経験が今後の生活に活かされるように関わります。</p> <p>相談事業 電話 メール SNS (LINE) 等による相談支援 平日日中 8:30～18:00</p> <p>心理相談 公認心理師等による 面接相談 心理カウンセリング</p> <p>同行支援 産科病院受診 (令和 5 年度実績より、妊娠確定診断料を補助することにより初診のハードルが低くなりました。)</p> <p>地域連携事業 研修の開催 (相談者は複合的に問題を抱えており、様々な支援につながる為に相談員や関係機関を対象とした研修を行って行く必要があります)</p> <p>生活支援等</p>

受付番号：11

団 体 名	特定非営利活動法人 HappySpace ゆうゆうゆう
所 在 地	山梨県笛吹市
事 業 名	地域で支えあう家事・育児サポート事業
事 業 概 要	<p>核家族化が進み、家事・育児の負担が夫婦、または、妻だけ（ワンオペ）に大きく押し掛かっている現状が以前変わりません。</p> <p>アウェイ育児（すぐに頼れる人が誰もいない場所で子育てしている）も増え、その数は70パーセントを超えています。（子育てひろば全国協議会調査）</p> <p>特に産後は、母子の健康にも関わってくる重要課題で、緊急的に地域で支えあう仕組み作りが必要です。</p> <p>出産退院後、そのまま自宅に戻り、サポートなしで慣れない育児と家事を行わなくてはならない家庭が、増えていることも現実です。</p> <p>アウェイ育児に加え、近くに実家があっても地域柄、農繁期にはサポートしてもらえなかったり、実母との関係が悪く、頼れないなど理由は様々です。</p> <p>たくさんの子育て支援事業がある中、ファミリーサポート事業では、子どもを預かることはできても家庭をまるごと支援することができないので、何年もの間、課題となっていました。</p> <p>また、家事支援は、行政が認めたリスクのある家庭に限定されているため、気軽に利用することができないのも現状です。</p> <p>子どもが小さいときだけ(小学6年生まで)でもいいので、利用したいと思う家庭すべてをサポートをすることができたらと考えます。</p> <p>現在、子育てに関わる資格（子育て支援員、ファミサポ協力会員、ホームスタートビジター他）を持っている方が地域にたくさんいます。</p> <p>この方たちに、協力（有償ボランティア）をお願いし、子育て中に特化した地域で子育て家庭をまるごと支えあう仕組みを作りたいと思います。</p> <p>家事サポート、産前産後、緊急支援（病児・病後児）を段階的に資格取得できる講座を開催することでその仕組みを構築していきます。</p> <p>笛吹市で実績を積み、県内の他市町村にも広げていくことを目標にし、最終目的は、全国に広めていきたいと考えています。</p>

受付番号：12

団 体 名	特定非営利活動法人地球と共に生きる会
所 在 地	神奈川県厚木市 (山梨県内拠点：山梨県西桂町)
事 業 名	子育て世帯応援プロジェクト
事 業 概 要	<p>新型コロナウイルス感染症により、ひとり親世帯の家計に追い打ちをかけ、7割以上がコロナの影響で収入が減り、先の見えない暮らしに心身ともにストレスを抱えるひとり親世帯も増えている。そのため、家計を支えるための安定した収入を得るために仕事に追われ、どうしても子どもとゆっくり向き合い、共に過ごせる時間が減少し、子どもは孤食の機会が増え孤独を感じ、親にもストレスを抱えさせてしまう。そんな子育て世帯を、大自然のもとで稲作を体験することで元気にしたい。日本文化の源流でもある稲作には、豊かな心を育み、自然と人と人々が争わず、和して共に生きることの大切さを感じさせてくれる力がある。世界文化遺産富士山の麓で、日本の原風景でもある田んぼに入り、親子で土に触れ自然を感じながら、初対面の人とも助け合って、田植えや稲刈りをする事で、心が豊かになる場を提供したい。富士北麓・東部米祭り 親子稲作体験お田植え祭・収穫祭には、各国大使館より大勢の方が一般参加者と共に田植えや稲刈りに参加をされるので、他では経験できない貴重な体験を親子で体験することができる。世界規模の災害が起き、食料を輸入できなくなると日本の食料自給率はほぼ0%。現在の食料自給率は37%で、その中でも山梨県の食料自給率は、都道府県ランキングでは37位で18%。(2020年調査)世界規模の災害が起き、食糧危機に見舞われた時に、親子稲作体験が、世界を救うかもしれない。そんな未来に夢と希望を持つことができるような体験を親子に与える場を提供したい。夏休みには、大使館表敬訪問を通じて、世界について親子で話し合える機会を提供し、グローバルな視点を持つ子どもの育成にもつなげたい。山梨県の子育て世帯が元気になれるよう、日本の伝統文化や田んぼにまつわる多種多様なイベントを開催する。親子玄米粉料理ワークショップを開催し、食の改善に関心を持つきっかけとしたい。</p>

受付番号：13

団 体 名	(任意団体) 芦安ママズ
所 在 地	山梨県南アルプス市
事 業 名	子育ての地域力 UP！ (副題) ～住民みんなが家族のように関わり、不安のない子育てができる地域をつくるプログラム～
事 業 概 要	<p>本事業が対象とする芦安地域は人口約 230 名、国の規定により、過疎化地域とみなされる小さな集落です。人口は昭和 35 年の 1,161 人をピークに減少し続け、平成 25 年に芦安保育所が閉園。現在子育て世帯数 14 世帯、子ども 24 人と少ないため、仲間が作りが困難となり、さらには児童館や子育て支援センターも地域内に存在せず、困った時に声をあげる場所や相談する相手がわからないので、子育て世代が孤立するという状況に直面しています。</p> <p>そして 2019 年のコロナをきっかけに、高齢者の多い芦安地域では地域内でのコミュニケーションも格段に減少し、関心のある地域住民も、子育て世代との関わりがなくなり、子育ての現状の厳しさ、手を差し伸べる機会もなくなってしまいました。現在では、子育て家庭の孤立化に拍車がかかった状態のままとなっています。</p> <p>そこで、地域の子どもたちをみんなで見守れるような、地域コミュニティを再生する事業が必要と考え、地域がみんなで作り、一緒に食べる「地域食堂」を開催します。老若男女問わず、さまざまな世代、多様な環境におかれた人たちが「食」をテーマに、気軽に地域に関われる機会をつくることで、顔の見える関係をつくり、地域コミュニティの再生を図ります。運営は地域で子育てをするママ・パパたちが中心となり、自治会や地域で活動する団体と連携して進みます。地域で経済活動をする団体（旅館組合はたごの会）が食事を企画、おやつ調理ボランティア（かたくりの会）が調理を支援。さらには地域住民をはじめ参加者全員が活躍できるような、みんなで楽しめるプログラムを子どもたちと企画しながら、幅広い世代が気軽に地域に関わり、参加できる、小さなコミュニティだからこそできる村民全員参加を目指す地域食堂を実施することで、地域力をつけ、地域全体で子育てを支え、自治のチカラをつけることで、安心して子育てができる地域づくりを行います。</p>

受付番号：14

団 体 名	(任意団体) 晟州塾
所 在 地	山梨県甲州市
事 業 名	不登校者救済プログラム
事 業 概 要	<p>1 概要</p> <p>県庁主催の未来プロジェクトに参加し、山梨県下の現役大学生の指導を行いながら、不登校者の救済プロジェクトを実行する。</p> <p>山梨県全体として、小中校生の不登校者数は約 2000 人余りに上るとされている。彼ら彼女らに新たな学びの場を提供し、学ぶことの喜びや楽しさを伝え、生きる活力を取り戻してもらおう。具体的に現在の彼ら彼女らに必要なことは何かを考察し、彼ら彼女らが社会に出て活動し、自活できるようにするには、どのような場所を提供することが良いのか探求する。不登校になった原因は様々であり、個々の置かれた環境に起因すし、その究明は容易ではない。そこで、将来の教育界や福祉の分野で活躍したいと考えている大学生にこれらの難題に取り組んでもらい、今後の糧となるような指導をしていきたい。</p> <p>2 学生活動細部</p> <p>(1)不登校者にとって大切な学びとは何かを考え、どのような空間が彼らにとって必要なのかを提案させる。</p> <p>(2)不登校者と交流を図り、一人でも多くの笑顔を取り戻す。</p> <p>(3)不登校者にアンケートをとり、その結果を集計し、解決案を模索する。</p> <p>(4)不登校者等と学生が共に学び、お互いに人生にとって大切なことは何かを探求する。</p>

団 体 名	(任意団体) Neighbor' s SHIELDS
所 在 地	山梨県上野原市
事 業 名	「なんとなく生きづらい」を「たしかな隣人の盾」につなぐ
事 業 概 要	<p>食事提供、学習支援、居場所提供、体験活動など、子どもたちが安心して成長できる環境を整え、多様な事業を展開します。</p> <p>これらは、地域の資源と連携しながら、一人ひとりの子どもに最適な支援をオーダーメイドで提供することを心がけます。</p> <p>①特に交通が不便な山梨では、支援が必要な子どもたちが既存の支援施設にアクセスできない場合が多いため、アウトリーチ活動や送迎支援をします。</p> <p>②子どもたちの「好きなこと」に焦点を当て、個々の興味や強みを生かした体験機会の提供を通じて、自己肯定感と社会への参加意欲を高める取り組みを進めます。</p> <p>③教育支援では、学習の機会が限られている子どもたちに対して、経済的障壁を取り除くための奨学金制度等の説明提供も行います。</p> <p>これにより子どもたちが将来の職業選択や進学において多様な選択肢を持てるよう支援します。</p> <p>④地域住民と共に問題発見からの連携を呼びかけ、子どもたちを支える人材を育成し、子どもの体験活動の経験格差の支援を行います。</p> <p>子どもと繋がる人を増やし将来の選択肢を増やし貧困の連鎖を断ち切ることを目指します。</p> <p>このように、私たちは子どもたちが将来に希望を持ち、自分たちの力で夢を追求できるよう支援するための環境を提供します。</p> <p>これには、心理的、社会的、生活的なサポートが含まれており、一人ひとりの子どもが本来持っている力を最大限に発揮できるようにする中で、子どもたちは、少し前に進む希望が生まれます。</p> <p>今はまだ、夢を自由に描くことができない子どもや家族に、どうしたら自分の可能性に気づいてもらうことができるか、その子どもや家族の隣にいる私たち大人が、託されています。</p> <p>自分の未来を自ら変えるために、今の自分を変えることは簡単なことではありません。</p> <p>それでも「変わりたい」「勇気を出して一歩踏み出してみたい」と挑戦する子どもや家族を全力でサポートします。</p>

受付番号：16

団 体 名	(任意団体) taneto
所 在 地	山梨県甲州市
事 業 名	対話とつながりで社会課題を解決する
事 業 概 要	<p>本事業は、コロナ禍における生活様式の変化に対応し、家庭内および社会全体でのコミュニケーションや課題解決力の質を向上させる為に、非暴力コミュニケーション（NVC）の技術を用いたワークショップの開催、自然体験と環境教育の機会の提供、立場を超えた対話の機会をつくり、継続的なコミュニティサポート行い、家庭や地域社会において対処療法的ではなく、根本的な課題解決を促進します。</p> <p>具体的には、以下の五つの主要な事業を展開します。</p> <p>NVC（非暴力コミュニケーションワークショップ）：子育て支援センターと協力して、親子向けの NVC ワークショップを定期開催し、相互理解を深めるためのコミュニケーションスキルを学びます。これにより、家庭内の摩擦を減少させ、より調和の取れた家庭環境を築く手助けを行います。</p> <p>自然体験・環境教育：親子での自然体験を企画し、子どもたちの体力向上と心理的ストレスの軽減を図ります。自然の中での活動が心身の健康に及ぼすプラスの影響を、具体的なプログラムを通じて体験できるようにします。また、園行事の中止などで失われた地域間でのつながりの機会を作ります。</p> <p>つながりの場づくり：教育関係者、保護者、専門家を含む多様なステークホルダーが集う対話の場を設け、子どもたちの抱える課題について共に解決へ導くための基盤をつくります。</p> <p>情報プラットフォームの構築：地域社会のニーズを把握し、それに応じた情報を共有できるプラットフォームを制作します。これにより、様々な支援情報を一元化し、アクセスの容易な形で提供することを目指します。</p> <p>これらの事業を通じて、taneto は子どもたちが健やかに成長し、発達するための支援を行い、また地域社会全体の問題解決能力を高めることを目指します。</p>

受付番号：17

団 体 名	特定非営利活動法人 WakuWaku の家
所 在 地	山梨県山梨市
事 業 名	不登校・発達障害の悩みや困難を抱えた子どもと家族を救う連携支援プログラム (副題) 点と点をつなぐ支援・仕組みの構築を目指して
事 業 概 要	<p>文科省の問題行動・不登校調査によると、山梨県内での不登校児 2024 人（30 日以上欠席）を超え、過去最多を更新している。</p> <p>多くの子どもたち、保護者の方達が悩み、不安を抱えている中、その悩みや解決に向けた相談をする先は、学校・行政・医療・民間と場はあるものの、それぞれが独立しており、連携を取る体制が組まれていない。そんな中で子ども達やその保護者の方達は、なかなか出口の見えない日々不安を募らせ、対策が遅れることで状況が悪化していることも少なくない。不登校児と言われる子ども達の約 8 割が居場所を見つけられず、自宅にいとわわれている。また、学校以外の学びの場・居場所についての情報が少ないことでより孤立感を強める結果となっている。</p> <p>不登校児を抱える親の悩みとして、「我が子が不登校になった、学校生活に馴染めない（問題行動）と指摘された時に、まず何をすればいいかわからない。」そして、「家族・地域の人からの目が気になり、どこにも相談できない。」という意見が多く聞いてきた。</p> <p>そこで、子ども達や保護者の方達の第 3 の居場所として活動していくことで、孤立している親子と繋がっていききたい。更に同じ境遇を抱えた親子同士のコミュニティの場となったり、親子の悩みを受け止めて力となっていける専門家を交えた支援体制作りをしたり、公的機関と連携しながら子どもの居場所作りに尽力していきたい。</p> <p>これらの現状を改善していくために、以下の 5 つを事業内容として実施していく。</p> <ol style="list-style-type: none">①民間のよさを発揮した相談窓口を作る②不登校フォーラムの開催③不登校支援者のネットワークの構築④親の会の開催⑤ <ol style="list-style-type: none">①情報提供の窓口②相談業務③子どもが安心して居られる場作りの継続④保護者同士のつながり⑤仕組み作りと広がり（組織・資金） <p>以上の事業により、私たちは山梨市から近隣の市町村また全県に向けて『不登校・発達障害の悩みや困難を抱えた子どもと家族を救う連携支援』を目指していく。</p>

受付番号：18

団 体 名	(任意団体) オンテンバール
所 在 地	山梨県甲府市
事 業 名	Empower her in 山梨 (副題) 女性のキャリア支援に向けたエコシステム構築
事 業 概 要	<p>山梨県内 5 地域で子育て世代向けの起業・就労に向けたセミナーを実施し、各地域同士の連携を確立。</p> <p>「決める・学ぶ・拓く・考える・繋げる」の 5 つのアプローチで、強固で柔軟な【女性が働ける社会の基盤づくり】を行い、翌年度以降県内各地で女性支援を実施するためのボトムアップを狙う。</p> <p>【5 つのアプローチ】</p> <p>決める→子育て中の母親を対象に自分に合った就労形態の選択やキャリア形成支援 学ぶ→母親にスキルアップや技術習得を目指す学習機会の提供 拓く→地域企業や NPO、子育て支援拠点、行政等と連携し、母親の就労や起業に繋がる受け皿を開拓 考える→先進企業へのヒアリングの機会を設け、山梨に合った柔軟な働き方を提案・推進 繋げる→事業終了後も様々な人やコトと繋がれるコミュニティ形成のサポート、各地域にて支援の核となる人材の発掘</p> <p>【主な事業内容】</p> <ol style="list-style-type: none">母たちのキャリア支援<ul style="list-style-type: none">- 個別相談でキャリアビジョンの形成を支援マインドセットやスキルアップセミナー<ul style="list-style-type: none">- 母親自身の自己分析を深く行い、理想の働き方を目指す- デジタルスキル、経理、広報スキル等の形成就労・起業マッチング支援<ul style="list-style-type: none">- 地域企業や NPO、行政、子育て支援拠点等と連携し、テレワークやフレックス勤務等柔軟な働き方の受け皿を開拓- 母親の起業・就労等に向けた関係機関とのマッチング支援先進企業訪問<ul style="list-style-type: none">- 地域特性に応じた支援模索の為、先進企業を訪問し情報交換を行うコミュニティ形成とリーダー候補の発掘<ul style="list-style-type: none">- セミナーや交流会にてコミュニティの形成を後押し。支援活動を自走できる素質を持った人材を発掘し、関係機関に繋ぐ <p>期待される効果:</p> <ul style="list-style-type: none">- 母親の就労意欲と自己肯定感の向上- 仕事と子育ての両立を可能にする柔軟な働き方の実現- 地域に根ざした自走的支援体制の構築- 子育て世帯の経済的自立と子どもの貧困の改善